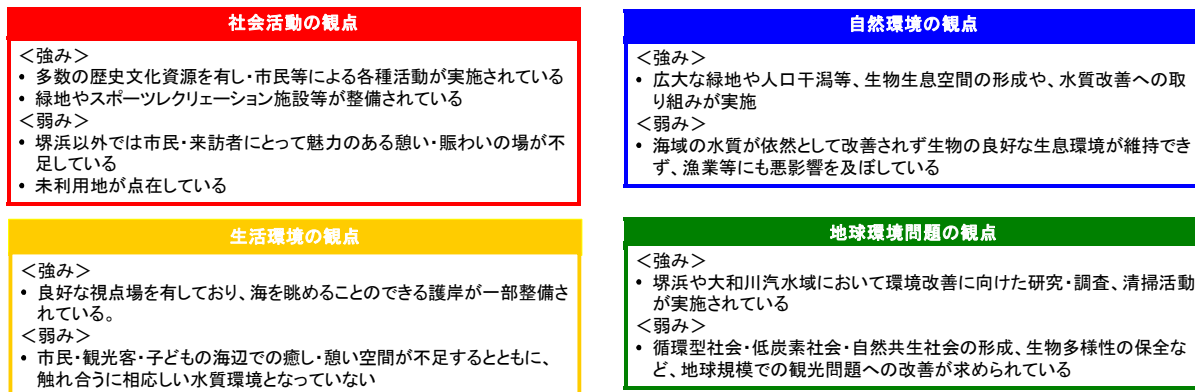


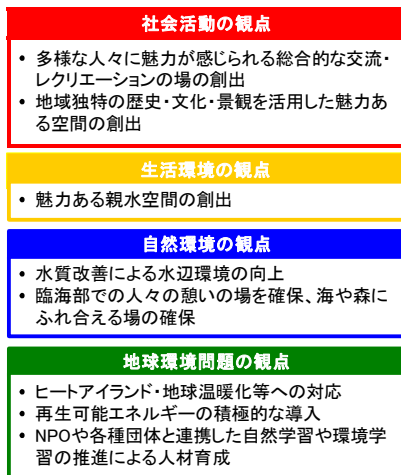
2.4.5 堺臨海部における課題・要請事項のまとめ

上記に示した堺臨海部の課題・要請事項をまとめると以下のとおりとなります。

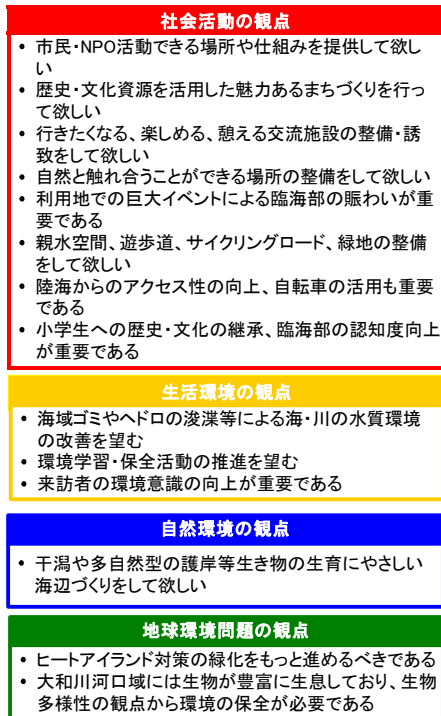
【臨海部の現状(強み・弱み)】



【上位計画・関連計画】



【市民・NPO・各種団体等のニーズ】



【臨海部における課題・要請事項】

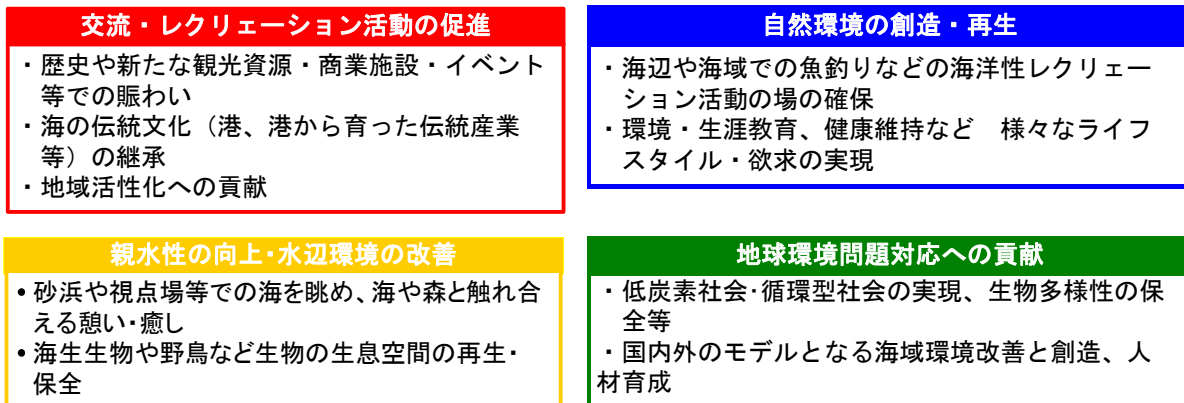


図 堺臨海部における課題・要請事項のまとめ

3. 基本理念、将来像及び基本方針等

臨海部の課題・要請事項を踏まえ、基本理念、将来像および基本方針を以下のとおりとしました。

3.1 基本理念

巨大古墳の築造、南蛮貿易の中核港、町衆文化・茶の湯の発祥の地、東洋一の海水浴場・水族館、日本の民間航空の発祥、海から育った様々な伝統産業、高度経済成長期を支え現在は世界を牽引する先端・環境技術の集積が進む工業地帯など、堺の海辺は、「東洋のベニス」と呼ばれ、「**黄金の日々・堺**」の象徴であるとともに、「もののはじまりなんでも堺」と言われるように時代々々のパラダイムを先取りし発展してきた堺の原点・活力源であり、後世に引き継ぐべき堺市民の貴重な財産です。

しかしながら、堺の海辺と市民との結びつきが弱まり、海辺の貴重さや市民の海辺への関心、思いが薄れるとともに、海辺が本来有する様々なポテンシャルを十分に活かしきれていないのが現状であり、かつての「**白砂青松**」の美しい海岸線、「**茅渚^{ちの}の海**」とよばれ魚介類が豊富な海域が失われています。

さらに、近年、市民の価値観やライフスタイルの変化や多様化が著しく、ゆとりやうるおい、グローバルな環境への配慮が求められるようになった今日、こうした新たなパラダイムへの柔軟な対応がもとめられています。このため、臨海部において、公共先導のもと、会合衆に代表される「**自由と自治**」、「**もののはじまりなんでも堺**」の精神を活かし、全国に先駆けて、市民が活動の主役となって、21世紀という新たな時代に相応しい、賑わい・憩い・癒し・環境が調和した海辺、“おもてなし”あふれる海辺など、みんなが力を合わせながら、みんなのための海辺を形成していくことにより、貴重な財産であり潜在的なポテンシャルを有する堺の海辺の再興・発展を図り、未来の堺を担う子どもたちに伝承していくとともに、市域全体の活性化に波及させていくことが重要です。

こうしたことから、基本理念を

『市民の財産「堺の“^{うみ}海”・“^{はま}浜”」の再興・発展・継承』

としました。

3.2 将来像

基本理念を受けて、めざすべき将来像を、

「環境負荷の軽減に配慮しつつ、由緒ある歴史文化資源と新たな資産が融合した、憩い・癒し・賑わいある人や生き物にやさしい堺の海辺」

としました。

具体的な内容は以下のとおりです。

- 地球温暖化・ヒートアイランド等への対応や再生可能エネルギーの積極的な導入による環境負荷を軽減できる海辺をめざします。
- 堺臨海部に点在する由緒ある歴史文化資源を有効に活用するとともに、新たな観光資源（施設）の活用により市民及び来訪者に魅力ある海辺をめざします。
- 人・物・情報が行き交う国際貿易都市として繁栄し、かつては東洋一のリゾート地としてうたわれた港を再興し、人々が憩い・癒し・賑わいの場を創出できる海辺をめざします。
- 市民・子どもが海に近づき触れることができ、生物の生息環境が確保するとともに堺の将来を担う人材を育成できる海辺をめざします。
- 地震・津波等の自然災害や工場災害等からの人々の安全にも配慮した海辺をめざします。

3.3 基本方針及びプログラム戦略

臨海部における課題・要請事項に対応し、将来像を実現するにあたって、以下の4つの基本方針を掲げ、8つのプログラム戦略（ヘルス・スポーツ・エコ・エンターテインメント・アーバン・エド・アグロ・テクノツーリズム）により施策を展開していくものとします。

- 交流・レクリエーション活動の促進を図るため、かつての「**黄金の日々・堺**」の再興をめざして、**「臨海部の賑わいづくり」**に取り組みます。
- 親水性の向上・水辺環境の改善を図るため、昭和初期までの「**白砂青松・茅渚^{ちぬ}の海**」の再生をめざして、**「海の市民開放」**に取り組みます。
- 自然環境の済生・創造を図るため、「**自由と自治**」の精神を受け継ぐ市民との協働により、**「自然再生を通じた人材育成」**に取り組みます。
- 地球環境問題対応への貢献を図るため、「**ものの始まりなんでも堺**」の精神を継承しつつ、**「先進的な地球環境問題への対応」**に取り組みます。

【基本方針１】臨海部の賑わいづくり＜黄金の日々・堺の再興＞

～歴史文化資源や新たな観光資源を活用し、市内観光ネットワークの一翼を担う

魅力あるエンターテインメント・アーバンツーリズムの創出～

- ・ 堺市の観光ネットワークのひとつとして、臨海部における貴重な歴史・文化資源や工場群、J-GREEN 堺などの新たな観光資源を活用した観光振興を推進する。
- ・ かつての海辺の賑わいを取り戻すために、商業施設の誘致やイベントの誘致・開催等の仕掛けにより臨海部への来訪機会を創出する。
- ・ 訪れる人が活動・体験の場として活用でき、また憩い安らぐ良好な景観への誘導、視点場の整備を行う。

などを通じて、

臨海部に訪れる市民や来訪者に対して、人々の満足感を満たす高質なサービスとホスピタリティを提供するとともに、人々の好奇心をくすぐる娯楽や祭事、仕掛けを創造することで、人々の交流の促進やサービス・リゾート産業の育成を推進することにより、地域の活性化を図ることとする。

【基本方針２】海の市民開放＜白砂青松・茅渚の海の再生＞

～市民・来訪者が海を眺め、海と触れ合えるアメニティ豊かで、様々なライフスタイル・欲求を実現することができるヘルス・スポーツツーリズムの創出～

- ・ 環境教育や生涯教育の場、健康維持の場、清掃活動の場などの市民・NPO 活動の場を創出する。
- ・ 臨海部までのパブリックアクセスの充実により、市民が安全・気軽に訪れることができる海辺を創出する。
- ・ 公共交通機関の充実のほか、自転車、海上交通などの連携によりアクセス・回遊性を向上する。

などを通じて、

心や体の健康を維持・増進する上で海が有する様々な効用や資源を活用し、健康や長寿、美しさへの人々の欲求を満たす活動を展開するとともに、注目を集めるプロスポーツ大会等の誘致や市民スポーツとの連携などを行うことで、スポーツ・健康産業の育成やマスメディアによる知名度の向上を推進することにより、地域の活性化を図ることとする。

【基本方針 3】自然再生を通じた人材育成

＜「自由と自治」の精神を受け継ぐ市民との協働＞

～市民・NP0 など多様な主体による大阪湾の自然環境の再生・創造や環境・

生涯学習を通じた人材育成を展開するエコ・アグロ・エドツーリズムの創出～

- ・ 海辺で憩い、楽しみ、海や生き物と触れ合える水辺空間を創出する。
- ・ 人が触れ合えるにふさわしい水域、多様な生物が生息できるよう陸域や海域において、様々な形態の自然環境の再生・創出を進める。
- ・ 各種団体と連携し、環境学習や植栽活動等を通じて人材育成や環境意識の啓発を実施する。

などを通じて、

地域の大学やNP0・市民団体等の豊富な人材やノウハウを活かし、市民はもとより修学旅行生などを対象として海辺を教育の場として活用するとともに、大阪湾の豊富な魚介類を活用した食文化の形成や漁業体験・PR活動を図ることで、将来を担う人材の育成や観光・水産業の育成を推進することにより、地域の活性化を図ることとする。

【基本方針 4】先進的な地球環境問題への対応

＜「ものの始まりなんでも堺」の実践＞

～国内外のモデルとなる先進的な環境改善技術の研究・実践を通じ、低炭素都市「クールシティ堺」や循環型社会の実現、更なる市の発展に貢献するテクノツーリズムの創出～

- ・ 地球環境問題に対し、臨海部からも低炭素社会や循環型社会の実現に向けて再生可能エネルギーの導入などの積極的な取り組みを実施する。
- ・ 国内外のモデルとなるような新たな技術やシステムの研究・開発（特に東南アジアへの技術協力など）や人材の育成を推進する。
- ・ NP0 や各種団体と連携した自然学習や環境学習を推進する。

などを通じて、

全国的な閉鎖性海域の課題である富栄養化や貧酸素化といったデメリットを改善するだけでなく、魚介類の育成やエネルギー活用などメリットに転換する技術の開発や海外貢献を図ることで、環境産業の育成を推進することにより、地域の活性化を図ることとする。

本ビジョンで取り扱う「ツーリズム」とは、海の多様な資質を資源化し人材集約型で多様な人の行動欲求を満足させる産業活動を示すものであり、総てのツーリズムにプロフェッショナルな専門家、大学、企業、研究所、病院、NP0、NGO などが運営組織に組み込まれるものです。（詳細は参考資料を参照）

3.4 プログラム戦略の展開地区

堺臨海部のもつ立地特性・課題から分割した地区（A 地区～G 地区）及び各地区で展開するプログラム戦略は以下のとおりです。



※航空写真は大阪府より提供

図 地区配置

➤ 【A 地区】堺旧港

当地区は歴史的資源、公園や体育館など市民が憩える場を有すること、さらに都心部に近接しており、賑わい空間・交流の空間を創出することができる地区であることから、「**エンターテイメント・アーバンツーリズム**」を展開します。

➤ 【B 地区】堺浜北側地区

当地区は野球場やサッカー場などのスポーツ施設を有しており、J-GREEN 堺を核に多目的なスポーツ広場としての活用を図ることができる地区です。また、現在人工の砂浜が造成されており、将来的には海との触れ合いや砂浜でのスポーツ等も可能となることから、「**ヘルス・スポーツ・アグロツーリズム**」を展開します。

➤ **【C 地区】堺浜南側地区**

当地区は水と触れ合える空間を有しており、広大な防災緑地を市民へ海の開放し、海洋性レクリエーション活動の場を提供することができる地区であることから、また、人工干潟等の環境改善の拠点とすることから、「**エコ・ヘルスツーリズム**」を展開します。

➤ **【D 地区】堺浜水域～堺第 7-3 区**

当地区は、大和川汽水域の良好な生物生息環境を有しており、また共生の森などの大阪湾の自然再生・創造を図ることができる地区であることから、また、北泊地を中心に大阪湾の環境改善に向けた技術開発が進むことから、「**エコ・エド・テクノツーリズム**」を展開します。

➤ **【E 地区】堺第 7-3 区地区**

当地区は利用に制限のある廃棄物処分場跡地を活用し、市民にスポーツや市民活動の場を提供することが可能な地区であることから、「**ヘルス・エコ・エドツーリズム**」を展開します。

➤ **【F 地区】浜寺水路**

当地区は階段式の親水護岸を有し、また集客力のある浜寺公園も有していることから、親水性やレクリエーション機能を高め、阪堺電気軌道の利用促進に寄与することができる地区であることから、「**エンターテイメント・エドツーリズム**」を展開します。

➤ **【G 地区】その他の臨海部**

重点対象地域を以外の臨海部は、企業の生産工程や PR 館見学との連携、工場クルーズ・ツアー等により観光資源としての利活用を図ることができるエリアである一方、窪地等の存在により水質の改善が望まれている地区であることから、「**アーバン・アグロ・テクノツーリズム**」を展開します。

<その他の機能>

重点対象地域が連携した一体的な利活用を実現するため陸・海アクセス（阪堺電気軌道・海上バス・コミュニティバス・自転車等）により各地区の連携・周遊性を高めます。

表 各地区の主なプログラム戦略

地区		主なプログラム戦略							
		ヘルス	スポーツ	エコ	エンター テインメント	アーバン	エドム	アグロ	テクノ
A	堺旧港				○	○			
B	堺浜北側地区	○	○					○	
C	堺浜南側地区	○		○					
D	堺浜水域～ 堺第7-3区地区			○			○		○
E	堺第7-3区地区	○		○			○		
F	浜寺水路				○		○		
G	その他の臨海部					○		○	○

※上表○印は各地区の主なプログラム戦略を示す。

また、堺旧港・浜寺水路を含む市街地エリア（A, F, G 地区）を、「主に市街地の近接性を踏まえこれまでの歴史文化資源、公園等の資産を活用し、賑わいに重点を置き、活性化を図るエリア」、堺浜・堺第7-3区を含む臨海部エリア（B, C, D, E, G 地区）を、「主に J-GREEN 堺や共生の森など新たな資産を活用し、健康・環境に重点を置き、活性化を図るエリア」としました。